

令和2年度
札幌医科大学附属病院
理学療法士・作業療法士
研修プログラム

募 集 案 内



札幌医科大学附属病院



ご挨拶



札幌医科大学附属病院
病院長 土橋 和文

札幌医科大学附属病院は、“道都”札幌の中心にある、公立の医系総合大学の附属病院です。自由闊達で新進気鋭の、門戸開放と変革の精神は開学以来の伝統です。

本学では、昭和58年に札幌医科大学衛生短期大学部、平成元年に保健医療学部へ発展改組致して参りました。これまで卒業生は1,000名超全国各地で活躍されています。平成26年度には、これまでの保健医療学部および保健医療学部大学院教育に加えて、より実践的な「札幌医科大学附属病院、理学療法士・作業療法士研修プログラム」を先駆けて策定しました。全国より才能豊かな人材に恵まれ、科学的マインドを持った医療人の育成に寄与して参りました。

高齢者社会となり内因疾患の生命予後の改善もあり、理学・作業療法は数多くの医療分野において随一の成長分野であります。本学附属病院・教育関連施設などが関わる教育力は運動障害、内部障害、小児神経、高次機能ともに全国屈指です。

平成30年には、リハビリテーション階層を含む増築病棟が完成しました。また、今後数年で旧病棟の再編がなされ、新たな四半世紀への挑戦が始まります。共に未来医療の扉を開きましょう。



リハビリテーションは、近年、対象となる疾病ならびに障害の幅が大きく広がり、臓器別診療科の治療と協働して、急性期から生活期まで適切なチーム医療を進めることが求められています。リハビリテーション対象者の心身機能・活動・参加の向上に介入する理学療法士・作業療法士への期待は、これまでも増して高まっており、さらに高度な専門性が要求されるようになりました。

当センターの研修プログラムは、高度化する医療に対応する最先端の理学療法や作業療法を推進していくため、基礎的・専門的知識、技術、および医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指しています。理学療法士・作業療法士の養成過程を有する医系総合大学と大学附属病院という環境を最大限に活かし、リハビリテーション科および関連診療科との良好な協力関係を基盤とした研修体制を構築しました。教育と研究を基盤とした研修環境は、エビデンスに基づく科学的な臨床的資質を磨き上げるのに最適です。

研修を希望する理学療法士・作業療法士の多様な臨床経験に配慮し、新卒研修や高度専門研修、および学び直しなどといった柔軟な研修プログラムの選択が可能となっています。経験や専門性に応じて、研修コーディネーターが、最適な研修を推進できる個別プログラムを提供します。

本研修制度は全国に先駆けてスタートしました。本学附属病院、理学療法士・作業療法士研修センターは、これからの理学療法・作業療法を担っていただく方々の新しいキャリア形成に大きく貢献できるように、研修生の皆さんとともにプログラムを発展させていきます。



PT・OT 研修センター長
リハビリテーション医学講座
教授 石合 純夫

研修理念

高度化する医療に対応する最先端の理学療法・作業療法を推進するため、基礎的・専門的知識、技術、医療人としての態度などを包括した臨床能力の向上を目指す。

○目標

昨今の高度化するリハビリテーション医療では、急性期から慢性期にわたる様々な病態に対応する高度な専門的理学療法・作業療法が期待されています。本研修プログラムでは、医師と強い連携が確保された専門化した理学療法や作業療法を推進していくための基礎的・専門的知識と技術、および医療人としての態度などの臨床能力の向上を目的としています。

○特徴

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部において、実際に勤務しながら研修を受けることから実践的な内容を学ぶことができます。とくに、大学附属病院という先端的医療を担う当院の関係診療科との連携を深めながら研修を実施することにより、専門的な知識を取得することができます。

また、研修療法士の多様な臨床経験や希望する研修内容に配慮し、研修目的に応じた研修コーディネーターを配置した個別プログラムとなっています。

○プログラムコーディネーターメッセージ



PT・OT 研修センター 副センター長
運動器および内部障害系専門研修プログラムコーディネーター
保健医療学部 理学療法学第二講座
教授 片寄正樹

高齢化社会における地域医療、そして、複雑高度化する医療など、理学療法・作業療法が大きく貢献できる対象も広がりを見せています。その広がりの中、理学療法・作業療法の専門性をチーム医療で発揮できる素養や専門分化してきた医療現場のニーズに応えていく高度な臨床能力など、求められる能力や専門性も多岐にわたってきました。

しかし、その基本は臨床現場で求められる医療に適切に対応するとともに、学術研究成果を活用した先端的知識、技能を活用することといえます。

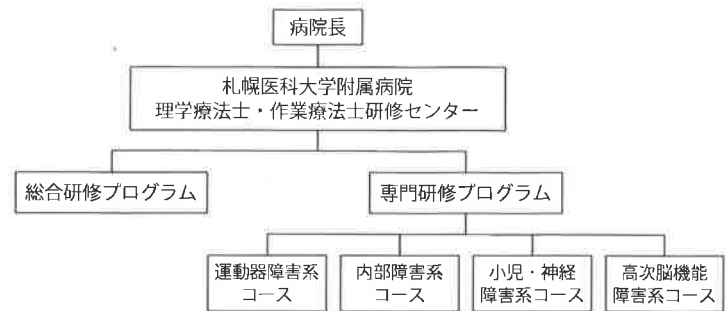
本研修センターでは、1) 医系総合大学の教育・研究を基盤とした研修環境で、2) 研修療法士の臨床経験、目的に応じた個別研修を企画し、3) 臨床実務から学び続けていける人材を養成するプログラムを運営しています。

研修コーディネーターにより、研修療法士の学ぶべき内容に応じた医学部・保健医療学部の教授陣、およびリハビリテーション部スタッフで複数の指導者を構成し、個別の研修療法士の充実した研修をすすめる環境を確保しています。専門コースでは関連専門診療科の講師陣による指導も直接うけることができるなど、これまでにない研修環境も整備しています。理学療法士、作業療法士の先進的なキャリア育成としての本研修センターでの研修を経て、今後の活躍を大いに期待したいと思います。

研修プログラム

○運営体制

- 中心となる組織
札幌医科大学附属病院
理学療法士・作業療法士研修センター
- 運営体制
責任者：札幌医科大学附属病院長
研修修了者には研修修了証を交付
理学療法士・作業療法士研修センター：
研修プログラム及び研修計画等の企画・実施
- 指導体制
各研修プログラムの責任者として、プログラムコーディネーターがプログラムの作成、研修実施、研修修了項目のチェック・評価表の作成を行う。



○総合研修プログラム

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部に所属し、理学療法・作業療法について総合的に学びます。新卒者、および先端的な理学療法・作業療法の学び直しを希望される方を対象としています。

○専門研修プログラム

専門性に応じた4つのコースがあります。この専門研修プログラムは、研修内容に応じ関係診療科と連携した研修をすすめることができます。各コースに関係診療科との連携と専門性を備えた研修コーディネーターを配置しています。

総合研修 プログラムコーディネーター
附属病院 リハビリテーション部

副部長 柿澤雅史



現在、リハビリテーション医療はより高度専門化し、卒前教育の知識、技術のみで臨床の場で十分に対応できる能力を身につけることは困難となってきています。個々の理学療法士、作業療法士は、各勤務先の医療機関内での教育システムや様々な研修会、講習会等へ参加することで、自己努力によりスキルを高め、この状況に対応しています。

このような背景の中、平成26年度より、札幌医科大学附属病院では、理学療法士・作業療法士研修制度を開始しました。先端医療を提供する大学附属病院という環境を活かし、関連する様々な診療科と連携した個別のプログラムを提供することで高度なリハビリテーション臨床能力を身につけることを目指しています。

総合研修プログラムでは、新卒者や先端的な理学療法、作業療法の学び直しを希望される方を対象とし、各種疾患別リハビリテーションの基礎的能力を養います。専門研修プログラムでは、運動器障害系、内部障害系、小児・神経障害系、高次脳機能障害系の4つのコースを設置し、各専門性に特化した能力を磨いていきます。

あなたも高い臨床能力を有し、地域のリハビリテーション医療に貢献できる理学療法士、作業療法士をめざしませんか。

プログラム概要

○総合研修プログラム

概要	<p>理学療法または作業療法全般に関する幅広い知識や技術に限らず、各種疾患別リハビリテーションに対応する基本的な能力を養うことを目指します。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。</p> <p>さらに A D L 場面で認められる障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。また、当院において取り組んでいる神経再生医療に伴うリハビリテーション場面を見学する機会も設けています。</p> <p>このプログラムでは、新卒者、および先端的理学療法や作業療法の学び直しを希望される方を対象としており、総合的な研修を実施します。</p>
コーディネーター	柿澤雅史（リハビリテーション部 副部長）
対象	理学療法士・作業療法士
研修期間	原則1年。 研修内容によっては半年以上2年までの研修期間とすることができます。

○専門研修プログラム

運動器障害系コース

概要	<p>運動器障害の病態、評価、治療に対する専門的な知識を取得し、運動器障害理学療法・作業療法全般に関する幅広い知識や技術を活用し、運動器障害に対する治療チームにおいて自律して活躍できる専門療法士となることを目指します。希望によりスポーツ外傷・障害に対する理学療法を中心とした研修に参加することができます。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な運動器障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。</p> <p>さらに A D L 場面で認められる運動器障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p>
コーディネーター	片寄正樹（保健医療学部理学療法学第二講座 教授）
対象	理学療法士・作業療法士
研修期間	原則1年。 研修内容によっては半年以上3年までの研修期間とすることができます。

内部障害系コース

概要	<p>内部障害理学療法学全般に関する幅広い知識や技術だけでなく、呼吸理学療法や循環器理学療法に関する専門的な能力の取得を目指します。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な呼吸循環機能障害で認められる症状に対する理解を深め、また、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。</p> <p>研修の後半では、得られた結果からどのような治療介入が適切であるのかを学びます。呼吸循環機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法を選択し、治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性について検討します。さらにA D L場面で認められる呼吸循環機能障害に対する評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p>
コーディネーター	橋本暁佳（循環器・腎臓・代謝内分泌内科 / 病院管理学 准教授） 片寄正樹（保健医療学部理学療法学第二講座 教授）
対象	理学療法士
研修期間	原則1年。 研修内容によっては半年以上3年までの研修期間とすることができます。

小児・神経障害系コース

概要	<p>小児発達障害および神経系理学療法学・作業療法学全般に関する幅広い知識や技術に加え、神経障害の病態に対する専門的な理学療法および作業療法を学びます。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な小児発達障害（早産低出生体重児、ハイリスク新生児から引き続く障害）、神経筋疾患を含む神経障害で認められる病態の理解を深め、病態像の把握につながる各種評価方法と検査結果の解釈について学びます。</p> <p>研修の後半では、適切な治療介入を選択する能力を養います。</p> <p>家族を中心としたアプローチの方法、成人の場合は社会復帰を目標としたアプローチの方法についての多くの情報を整理し、病棟生活における問題点を整理し、評価結果との整合性を追究します。</p>
コーディネーター	小塚直樹（保健医療学部理学療法学第一講座 教授）
対象	理学療法士・作業療法士
研修期間	原則1年。 研修内容によっては半年以上3年までの研修期間とすることができます。

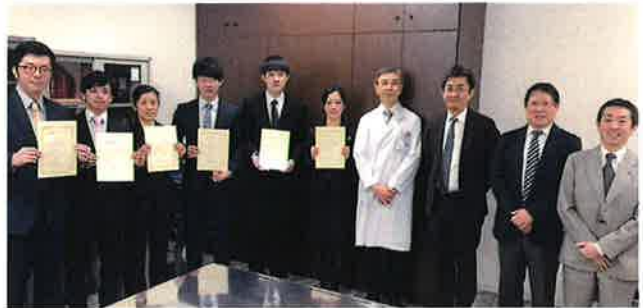
高次脳機能障害系コース

概要	<p>高次脳機能障害に対する検査バッテリーから得られる結果および、行動観察から得られる結果をもとに、症状特性についての解釈を行い、作業療法場面での治療介入につなげる過程を学びます。</p> <p>研修の初期段階では、基礎的な高次脳機能障害で認められる症状に対する理解を深め、責任病巣について学びます。また、検査バッテリーの実施方法と検査結果の解釈についても学びます。さらにA D L場面で認められる高次脳機能障害に対する観察評価、看護師からの情報提供をもとに、病棟生活における問題点を整理し、検査との整合性を追究します。</p> <p>得られた結果からどのような治療介入が適切であるのか、高次脳機能障害のみならず、必要に応じて身体機能障害も含めた治療介入方法の選択を検討します。治療経過に合わせて治療介入効果の妥当性についても検討します。</p>
コーディネーター	太田久晶（保健医療学部作業療法学第一講座 教授）
対象	作業療法士
研修期間	原則1年。 研修内容によっては半年以上3年までの研修期間とすることができます。

年間スケジュール



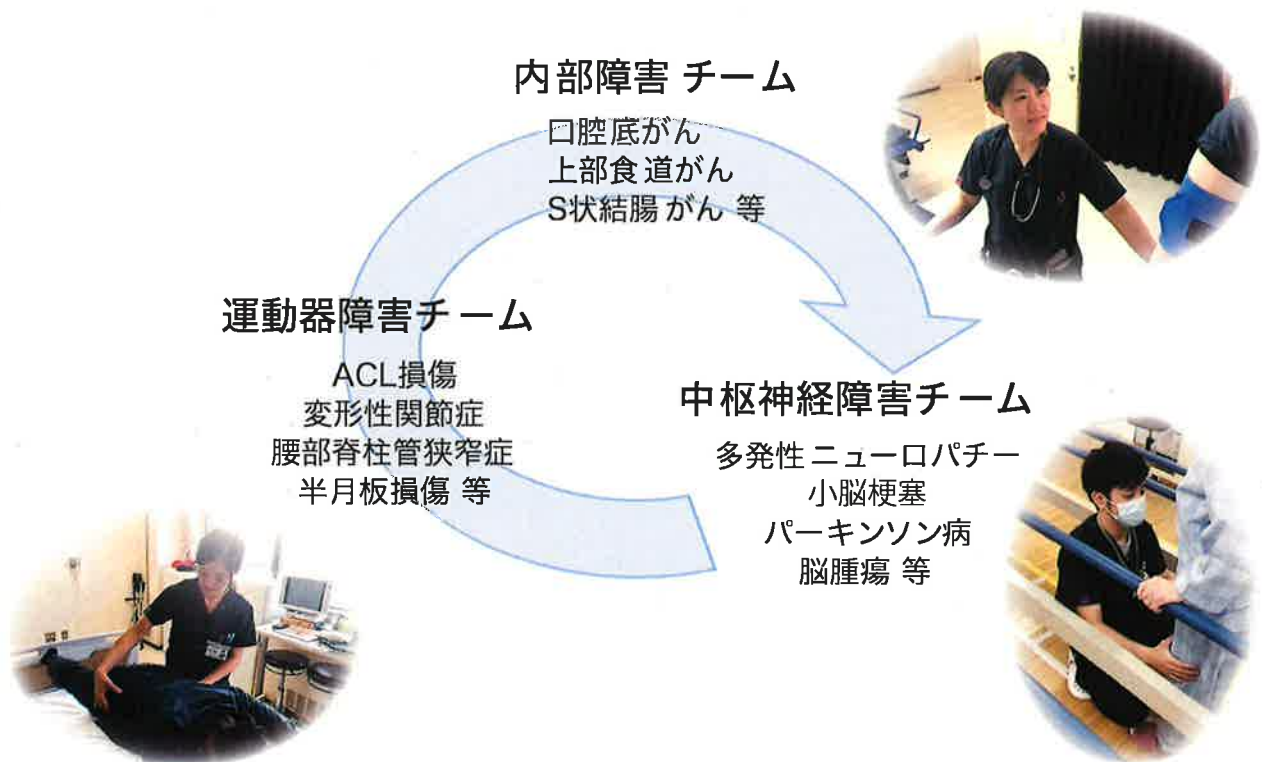
◀ 症例報告会



▲ 修了式

○ 総合研修（理学療法）ローテーションイメージ

3つのチームを1年間かけローテーションしていくことで、総合的な研修を実施する。



修了生の声

総合研修では、様々な疾患の患者様に対する理学療法を経験させて頂きました。この1年間を通して、領域にとらわれない多角的な視野を持つことを学べたと感じています。年3回の症例報告会では、臨床推論を通して担当症例の病態を深く理解し、かつ人にわかりやすく伝える技術についてご指導いただきました。経験の豊富な指導者と意見交換を何度も重ねることができる、非常に貴重な機会でした。理学療法士をはじめ、他職種と関わる機会を得ることができ、様々な思考に触れられることが、本研修に参加する最大のメリットであると感じました。

総合研修修了：佐藤 蓮さん（札幌医科大学大学院）

総合研修プログラムでは、多様な疾患の臨床や病態を学ぶ機会を頂き、1年目の理学療法士として大変貴重な経験を積むことができました。さらに、各領域での症例報告会を通じ、指導者や様々な理学療法士の方々と共有することで、自身の考えに加え幅広い視点をもつことができました。また、医師や看護師をはじめとする医療スタッフと連携する機会も多く、チーム医療の重要性を再認識しました。大学院進学にあたり、臨床に活きる研究ができるよう、研修制度での1年間の経験を存分に活かしたいと考えています。

総合研修修了：相馬 章吾さん（札幌医科大学大学院）

1年間を通して、様々な領域や疾患を経験するだけでなく、大学病院という特色を活かして学術活動にも触れることができ、新人理学療法士として身につけるべき臨床技術や思考過程の土台を学ぶことができました。また、直接ご指導頂いた先生方だけでなく、医師をはじめとして多職種とのディスカッションの機会を多く持つことができ、チーム医療がさげられる昨今の医療界において理学療法士にどのような能力が求められているのか実感致しました。今後の自身の進路を考える上で非常に充実した1年であったと感じます

総合研修修了：沼澤 瞭さん（帯広協会病院）

臨床経験を積む中で、高度な専門性や理論的な思考能力が不可欠であると感じ、卒後6年目に専門研修に参加しました。研修では、専門知識を有した指導者とのディスカッションを通じ、理論的な思考能力を養う訓練ができました。また、医師との連携の経験を通じ、医師の病態の考え方から治療までの理解を深めることの重要性を学びました。他、英文抄読会、サージカルトレーニング、外部スポーツチーム指導等に参加させて頂き、貴重な経験となりました。今後は、本研修で学んだことを継続し、患者さんや医療へ貢献したいと考えています。

専門研修運動器障害系コース修了：西川 祐未さん（帯広協会病院）

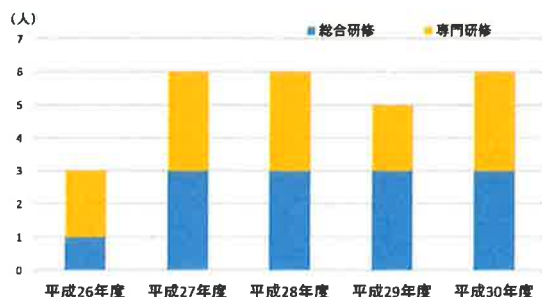
内部障害系コースでは主に心臓リハビリを中心とした循環器疾患に対するリハビリについて、知識と経験が豊富な指導者のもとで専門的に学ぶことができました。研修を通して主治医がどのように考え、どのような治療や患者さんに対して行っているのかをしっかりと理解しながら、チームとして患者さんに関わっていくことの重要性やそれがもたらす効果、また、世界的にはどのようなリハビリがエビデンスを得ているのが常に最新の知見を得ることの重要性、大学病院で行われている臨床研究について学ぶことができたことは大変貴重な経験になったと感じています。

専門研修内部障害系コース修了：下村 佳奈子さん（函館五稜郭病院）

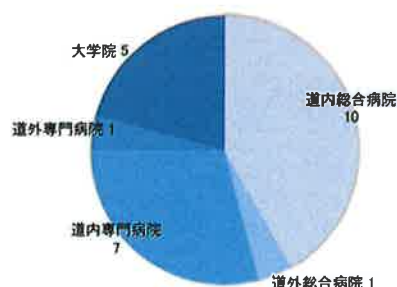
内部障害系コースでは、重症心不全症例を多く経験し、医師や看護師、薬剤師といった多職種で日々ディスカッションすることができ、大変貴重な経験となりました。また、症例をプレゼンする機会を多く設けて頂いたため、病態・治療方針の理解を深め、介入の方法や効果を検討し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供することができました。今後もリサーチマインドを持ち続け、質の高い理学療法を提供できるように励んでいきます。

専門研修内部障害系コース修了：本間 傑さん（札幌循環器病院）

○過去の受入状況



○進路状況（過去5年分）



令和2年度 札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修プログラム募集要項

1 各プログラムの対象者と募集定員

プログラム		対 象	募集定員
総合研修プログラム		理学療法士、作業療法士	5名程度
専門研修プログラム	運動器障害系コース	理学療法士、作業療法士	
	内部障害系コース	理学療法士	
	小児・神経障害系コース	理学療法士、作業療法士	
	高次脳機能障害系コース	作業療法士	

2 研修期間

令和2年4月1日から原則1年間

3 応募資格

- (1) 理学療法士免許または作業療法士免許を持つ者
- (2) 第55回理学療法士国家試験または第55回作業療法士国家試験の受験予定者

4 募集期間

令和元年8月1日（木）～10月4日（金）まで ※必着

5 応募方法

下記の応募書類を郵送または持参により提出してください。

(1) 提出書類

- ① 札幌医科大学附属病院研修理学療法士・作業療法士 願書（様式指定）
- ② 卒業（見込）証明書
- ③ 国家資格免許証の写し
- ④ 履歴書（様式自由）
- ⑤ 研修承諾書（社会人として在職のまま研修療法士となる場合）（様式指定）
- ⑥ 推薦書（様式指定）（*総合研修プログラムに応募する新卒者のみ）

※「札幌医科大学附属病院研修理学療法士・作業療法士 願書」、「研修承諾書」及び「推薦書」は札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センターホームページからダウンロードしてください。

URL: <http://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/program.html#program1>

(2) 提出先

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目 札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部

※郵送の場合は、封筒の表面に「研修療法士願書在中」と記入してください。

持参の場合 受付時間：9時～17時（ただし、土曜日、日曜日及び祝祭日は受け付けません。）

郵送の場合 募集期間内に必着とします。

(3) 事前連絡

志願者は事前にプログラムコーディネーターに連絡し、希望する研修の実現が可能かどうか確認してください。

研修プログラム		プログラム コーディネーター	内線	メールアドレス
総合研修プログラム		柿澤 雅史	36870	kakizawa@sapmed.ac.jp
専門研修 プログラム	運動器障害系コース	片寄 正樹	29620	katayose@sapmed.ac.jp
	内部障害系コース	片寄 正樹	29620	katayose@sapmed.ac.jp
	小児・神経障害系コース	小塚 直樹	28780	kozuka@sapmed.ac.jp
	高次脳機能障害系コース	太田 久晶	28450	hisoh@sapmed.ac.jp

代表電話番号 011 (611)2111 (内線 36870)

6 選考方法

面接試験を実施の上、合格者を決定します。

- (1) 選考試験実施日 令和元年10月29日(火)
- (2) 試験会場 札幌市中央区南1条西17丁目 札幌医科大学
(具体的な時間と場所はメールにて個別に連絡します)

7 結果通知

令和元年11月上旬、順次郵送にて結果を通知します。

8 処遇

当プログラムの研修期間の処遇については次のとおりです。

区 分	処 遇 内 容
常勤・非常勤の別	非常勤(日々雇用職員)
給 与	・給料：8,487円/日(業務経験年数6年未満の場合) 10,598円/日(業務経験年数6年以上の場合) ・通勤手当：有
勤 務 時 間	・月～金曜日 8:45～17:30 (時間外勤務及び休日勤務は原則なし)
休 暇	(1) 年次有給休暇 全労働日の8割以上勤務した場合に付与する。 2か月間継続勤務3日、6か月間継続勤務7日(通算10日) (2) 夏季休暇：無、年末年始：有、その他休暇：有
社会保険・労働保険の扱い	・公的医療保険：健康保険 ・公的年金保険：厚生年金 ・労働者災害補償保険法の適用：有 ・雇用保険：有
理学療法士・作業療法士賠償責任保険	病院において加入しない 個人加入：任意
外部研修活動	学会、研究会等への参加：可 学会、研究会等への参加費用支給：一部有

9 問い合わせ先

札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター

Email: ptot-center@sapmed.ac.jp

電話：011-611-2111(代表)(内線36870) FAX：011-621-8059

※パソコンのメールアドレスをお持ちの方は、できるだけパソコンのメールアドレスからご連絡ください。

その他の詳細については札幌医科大学附属病院ホームページをご覧ください。

<http://web.sapmed.ac.jp/hospital/>

●センター委員

- <センター長> 石合 純夫(リハビリテーション部 部長/医学部リハビリテーション医学講座 教授)
- <副センター長> 片寄 正樹(リハビリテーション部 副部長/保健医療学部理学療法学第二講座 教授)
- <委員> 柿澤 雅史(リハビリテーション部 副部長)
- 太田 久晶(リハビリテーション部 副部長/保健医療学部作業療法学第一講座 教授)
- 仙石 泰仁(リハビリテーション部/保健医療学部 作業療法学第二講座 教授)
- 小塚 直樹(リハビリテーション部/保健医療学部 理学療法学第一講座 教授)
- 橋本 暁佳(循環器・腎臓・代謝内分泌内科/医学部病院管理学 准教授)
- 青木 昌弘(リハビリテーション部/医学部リハビリテーション医学講座 助教)

名称	北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院					
病院長	土橋 和文					
所在地	北海道札幌市中央区南1条西16丁目291番地					
診療科数	【29診療科】 消化器内科／免疫・リウマチ内科／循環器・腎臓・代謝内分泌内科／呼吸器・アレルギー内科／腫瘍内科／血液内科／脳神経内科／消化器・総合・乳腺・内分泌外科／心臓血管外科／呼吸器外科／整形外科／脳神経外科／神経再生医療科／婦人科／産科周産科／小児科／眼科／皮膚科／形成外科／泌尿器科／耳鼻咽喉科／神経精神科／放射線治療科／放射線診断科／麻酔科／総合診療科／歯科口腔外科／リハビリテーション科／遺伝子診療科					
	【中央部門】 薬剤部／検査部／病理部／放射線部／手術部／医療材料部／リハビリテーション部／高度救命救急センター／集中治療部／医療安全部／感染制御部／臨床工学部／看護部／医療連携福祉センター／栄養管理センター／臨床研修・医師キャリア支援センター／看護キャリア支援センター ※画像・映像支援部門（大学組織）					
病床数	938床（一般病床890床 精神病床42床 結核病床6床）					
診療実績	入院	入院延患者数	261,391人	外来	外来延患者数	415,655人
		新規入院患者数	18,644人		1日平均患者数	1696.6人
		1日平均患者数	761.1人		手術件数	7,552件
					1日平均手術件数	30.8件

※2018年実績



札幌医科大学附属病院 理学療法士・作業療法士研修センター

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地
 電話：011-611-2111（内線36870）
 FAX：011-621-8059
 メール：ptot-center@sapmed.ac.jp